

「在宅での推定栄養状態と大腿骨近位部骨折術後の急性期リハビリテーションによる連続歩行能力との関係性に関する研究」について

1. 研究の対象

2024年6月1日より2025年1月31日までに、大腿骨近位部骨折を受傷し、当院に手術目的で入院しており、元々ADLが自立していた65歳以上の患者さん（連続歩行距離に影響の出る多部位の骨折や内部障害を持つ患者さんは除外します）

2. 研究目的・方法

在宅での推定栄養状態と大腿骨近位部骨折術後の急性期リハビリテーションによる連続歩行能力との関係性を調査します。

大腿骨近位部骨折患者さんに対して、在宅仮想 MNA-SF（Mini Nutritional Assessment Short Form）と退院時における最大連続歩行距離を後ろ向きにカルテより調査し、関係性を統計的に評価します。

①当院退院前の最大連続歩行距離に対して在宅仮想 MNA-SF や年齢がどう関係しているかについて重回帰分析を行います。

②歩行器を用いて当院病棟1周60mを歩行可能か否かと在宅仮想 MNA-SF の関係についてロジスティック回帰分析を行い、年齢で調整を行います。

※在宅仮想 MN-SF とは

MNA-SF（Mini Nutritional Assessment Short Form）と呼ばれる簡易栄養状態評価の項目の中で「自力で歩けますか？」という項目は入院時には0点となり計算されます。その項目を、在宅時における歩行状態の点数を付け直すことで、入院前の在宅における MNA-SF を仮想的に算出したものです。）

この研究を行うことで、在宅における栄養状態評価の必要性を地域社会に啓蒙できることが期待できます。

研究期間は病院長許可日から2025年3月31日までとしています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：・患者背景：性別、年齢、骨折部位

看護師による記録（在宅における移動様式）、リハビリテーション記録（退院時の連続歩行距離）、栄養士による記録（入院時の MNA-SF）等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所：〒434-0002 静岡県磐田市大久保 512 番地 3 磐田市立総合病院

電話：0538-38-5000

研究責任者：リハビリテーション科 医師 有本 直人 （研究責任者）